

久留米大学 バイオ統計センター 公開セミナー

対面形式
&
WEB(LIVE)
配信

國武 正幸 (久留米大学大学院 医学研究科 博士課程4年)

「パゾパニブ塩酸塩による高血圧発現予測因子の探索

およびその経時的予測性能の検討」

パゾパニブ服用患者では高血圧が頻発する。そこで本研究では、パゾパニブによる高血圧の予測因子を明らかにすることを目的とした。2012年11月から2020年2月までの久留米大学病院入院中に腎細胞癌または軟部肉腫でパゾパニブ治療を開始した計47例を対象とした。パゾパニブによる高血圧に関連する患者背景因子についてロジスティック回帰モデルを用いて分析した。また、パゾパニブ誘発性高血圧の予測因子の経時的な予測能の変化を評価するために、Time-dependent Receiver Operating Characteristic (ROC) 分析を行った。ロジスティック回帰分析の結果、総ビリルビン (t-bil) と性別 (sex)が、パゾパニブ導入前の収縮期血圧 (SBP) とともに、パゾパニブ誘発性高血圧の予測因子であることが示された。さらに、Time-dependent ROCを用いてパゾパニブ投与開始後20日間の曲線下面積 (AUC) の経時変化を評価したところ、SBPでは前半に、t-bilでは後半にAUCが高くなる傾向が示された。さらに、これら2つの因子を含むモデル (SBP+t-bilおよびSBP+t-bil+sex) は、治療期間の初期から後期まで高いAUCを維持した。ベースラインの収縮期血圧とともに総ビリルビンを取り入れることで、医療従事者はパゾパニブ投与中の患者の高血圧を予測し、監視する能力を高めることができ、より良い管理と患者ケアにつながると考える。

2024年5月15日(水) 18:00~19:00

久留米大学バイオ統計センター【コンピュータ室】

福岡県久留米市旭町67番地

申込方法

下記URLまたはQRコードより、前日10:00までにお申込みください。

<https://biostat-kurume.stores.jp/>



お問い合わせ

久留米大学バイオ統計センター公開セミナー係

✉ biostat_seminar@med.Kurume-u.ac.jp